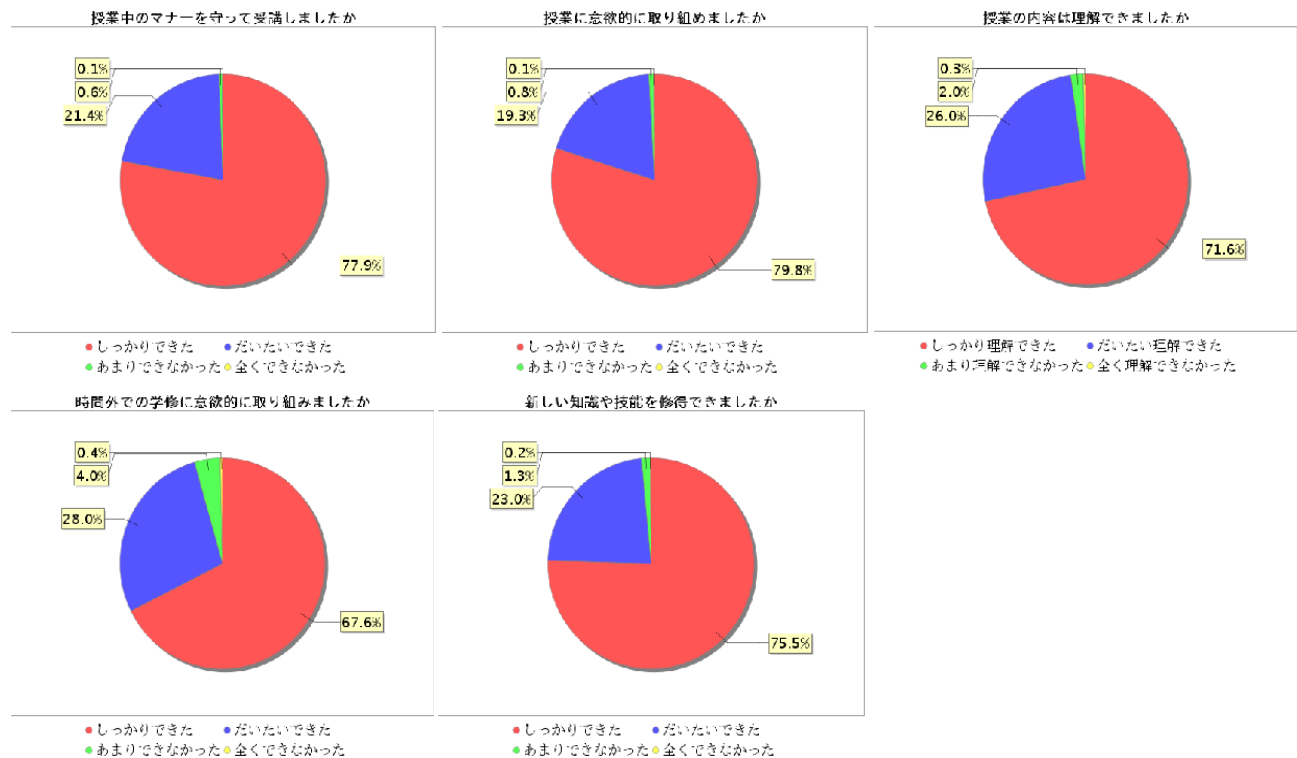


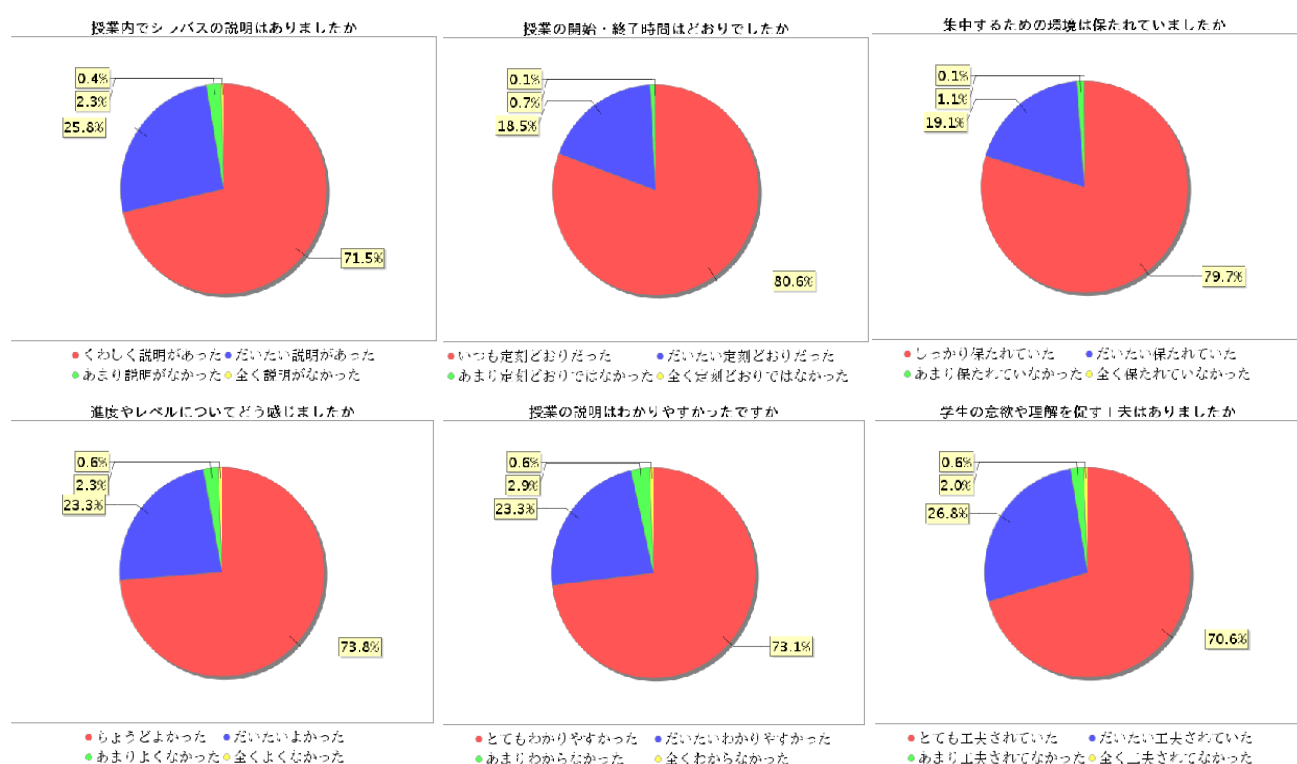
前期授業評価 「学生から教員の方々へ」

令和5年度前期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 自己評価の結果



□ 授業評価の結果



〈今回の結果からわかること〉

1. 授業評価の実施について

昨年度の一部変更点を踏まえて、今年度前期の授業評価を実施しました。

- 講義系・実習系の授業を区別せず、全科目同様の質問項目での実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると 95%を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活(授業)に取り組んでいること証であると言えます。しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当てて分析すると、「関心・意欲・態度」を測る「授業中のマナー」と「授業への意欲的な取組」については 70%を超えていますが、「時間外での学修への取組」については 67.6%とやや低い結果となっています。さらに、「あまりできなかった」が 4.0%、「全くできなかった」が 0.4%と、他の質問には見られない結果となっています。このことから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外での学修への取組」の改善が課題であると考えられます。

また、「授業の内容理解」と「新しい知識や技能の修得」についても、それぞれ 71.6%、75.5%と、意欲に関する質問と比較すると若干低い結果となっています。このことから、さらに充実した学生生活(授業)の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が 95%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。しかし、自己評価の分析と同様に、それぞれの質問に対する最も高い評価の結果だけに着目するといくつかの課題が見えてきます。

まず「授業の開始・終了時刻」と「集中するための環境」に関する質問についてはいずれも肯定的な評価が 75%を超えており、多くの学生が授業を受ける環境に十分満足していることが窺えます。一方、「進捗やレベル」は 73.8%、「説明のわかりやすさ」については 73.1%、「意欲や理解を促す工夫」については 70.6%、さらに「シラバスの説明」については 71.5%と、授業そのものに対する満足度は、前年度後期より良い傾向は見られるが、環境に対する満足度と比較すると若干劣っている結果となっています。

このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

前期授業評価 「教員から学生の方々へ」

令和5年度前期の学生による授業評価に対して、教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

専門科目

◆ 科目名(学科名の略 学年)

【幼児教育学科】

◆音楽・基礎(幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

音楽の授業は、今までの経験の有無によって進捗にかなりの差が出てしまいます。そのため、全員が理解できるように心がけて丁寧に説明をしながら授業を進めてきました。そのことが、みなさんに伝わり嬉しく思っています。しかし、進捗の状況を見て、授業内容が前後することもありました。今後は、みなさんが見通しを持って授業に臨めるように、できる限りシラバス通りの順序で進めていけるようにしていきたいです。

2. 今後の授業における目標

みなさんに伝えたい内容はたくさんありますが、授業は15週と決められています。その中でいかに分かりやすく、かつ効率的に進めていくか、今後も工夫しながら授業を進めていきたいです。また、個々の進捗状況を把握しながら、質問には丁寧に答えていき、理解度を上げてもらえるように取り組んでいきたいです。

3. 受講学生に対する要望

私の担当しているクラス授業は、音楽の基礎知識に関する内容で難しく感じる人も多いと思います。「理解しよう」「理解したい」と前向きな気持ちを持って受講すると理解度もアップしていきます。みんなで、楽しく学んでいきましょう。

◆造形・基礎(幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

材料や道具が必要なため授業内で行う課題が多くなります。授業時間内でどう制作していくか、アイデアを授業時間外でどう考えてくるかなど、授業内外での時間の使い方について、もっとアドバイスしながら進めていきたいと思っています。

また、授業を行う環境として、制作にしやすい配置が、板書がやりにくい配置にもなりました。配置について、工夫をしてグループ間でもやりとりがあるような環境をつくりたいと思います。

2. 今後の授業における目標

アイデア出しや小制作などを授業外にできるよう授業の構成を工夫します。

机の配置や材料置き場の配置などを少し見直し、より楽しく制作できる環境を目指します。

準備してもらった材料について、早めに提示しながら、用意しやすいように計画します。

3. 受講学生に対する要望

アンケート結果から、おおむね楽しんで制作ができていることがわかりうれしく思います。ゆっくり鑑賞する時間もとりながら、より楽しい制作体験と一緒にできたらと思います。いろんなアイデアもってきてください。

◆乳児保育 I (幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんは、乳児とかかわる経験が少ないため、できるだけイメージしやすいようにと、映像や事例、私

の保育現場経験を交えて授業を進めました。また、毎回、振り返りシートの記入とフィードバックを行い、意見や質問をしやすい環境を整えてきましたが、記入する時間が少ない点には授業の時間配分を改善していきたいと思います。その他、良かった点についてのコメントもたくさんいただいたので、今後の励みにしていきたいです。

2. 今後の授業における目標

大事な専門用語等についてプリントでまとめてほしいという学生の要望について、後半の授業では、前半の授業で学んだ専門用語等は、クイズ形式のワークシートで振り返ることで知識が定着するように工夫してきましたが、毎回の授業における教科書やプリントのポイントについては、もう少しわかりやすく提示していくようにします。

3. 受講学生に対する要望

皆さんが熱心に授業や学修に取り組む姿がとても嬉しく思います。今後の実習に向けて、子どもたちのつぶやきや保護者や保育者の思い等を聞き逃さず大切にしていくためにも、講義の中で、自らメモを取ったり、資料にマーカーを引いたり、ポイントについて、わかりやすくまとめる力をつけていきましょう。

◆幼児と言葉(幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回、授業の前半で絵本や紙芝居を通して、他学生と楽しんだり、発見したりしながら、保育技術の引き出しを増やしてほしいとの願いで「絵本や紙芝居の紹介」を行いました。また、保育技術を高められるよう、おはなし会の計画から実践、反省まで、学生主体のグループ活動を行い、「おはなし会で発表することで、スキルアップできた」「幼児にとって言葉がどれだけ大切なのかを知ることができた」等の評価をいただき嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

毎回、振り返りシートを通して、学生の知識の理解度を把握するだけではなく、学生同士の気づきを大切にしながら、保育技術も高められる内容にするとともに、工夫を凝らし、学生が主体的に楽しく学ぶことができる授業にしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

現場では、チーム保育が大切です。他学生とのコミュニケーションの取り方を考えながら、グループで協力して何かを作り上げたり、発表したりする経験をたくさん積み重ね、他学生の良さに気づき、素直に取り入れることができる保育者を目指してもらいたいと思います。

◆発達心理学(幼1、音 MT1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目も全体・学科評価平均点より高く、授業に対して改善すべき点は見いだせなかったが、自由記述のコメントから浮かび上がってきた学生の姿は「学べた」「知れた」という知識獲得型の授業の成果であった。授業形態は講義ではあるものの、発達途上にある学生どうしで意見交流をしたり、テーマについて共に考え深めたりする機会があるともっと有意義な時間になったのではないかと思う。

2. 今後の授業における目標

上記考察を踏まえ、授業の中に学生同士の意見交流や答えの無い問いについて考える場を取り入れていきたい。双方向性のある授業を実現できるよう、更なる工夫を重ねていく。

3. 受講学生に対する要望

この授業で得たことは、知識としてだけでなく、これから先の発達段階を歩む際の指標となるものです。発達途上で折に触れ思い出していただき、生きた学びとしてください。

◆教育原理(幼1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の自己評価及び授業評価の結果の数値は、昨年度とほぼ変わらなかった。昨年度、「書く分量が多い」「進度が速い」という指摘を受けて、書く分量を少なくしたり、全員が書き終わったことを確認したりしてから進めたつもりだが、依然同様の指摘があるため、来年度に向けてさらに改善を進めたい。具体的には指導内容を減らすことや確認の仕方の改善を検討したい。

2. 今後の授業における目標

引き続き、できるだけ学生が自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見に耳を傾けたりするなど主体的に活動する場面を取り入れることを心掛けたい。一方、どうしても知識伝達型の授業内容であるため、プレゼンをノートに書き写すという作業的な学習になっていることは否めない。したがって、学生がより満足感を得られる授業を目指して、授業内容と方法の改善を引き続き進めたい。

3. 受講学生に対する要望

教育を施す立場になった時に必要となる知識は、まだ教育を受ける側の皆さんにはピンとこない面があったかもしれませんが、将来の自分へのプレゼントだと考え、一所懸命書き込んだワークシートを大切に保管しておいてください。

◆保育指導計画の方法(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

まず、学生の自己の取り組みの評価について「理解」「意欲」の項目が平均より低かった。保育指導計画は簡単とは言えない分野であるが、保育現場では必須となる知識・技能である。なるべく要点を押しえつつ進めたが、まだまだ不十分であったと言える。学生が興味をもてるような授業展開をしていきたい。授業の取り組みに対する評価は概ね平均値以上であった。この水準を継続しながら、さらに向上していきたい。

2. 今後の授業における目標

学生が受講して良かった点について「わかりやすさ」があった。保育指導計画の作成は難しいものだが、「わかった」と思える瞬間は学生にとっても喜びであり、意欲の芽生えでもある。要点をわかりやすく解釈し、誰にでも作成できるポイントとして伝え、それを理解するための独自のワークの構築を今後の課題としたい。一方で、指導計画の意義についてさらに深堀することで動機付けにもつながるよう、授業展開を考えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

想定しにくい週案などにも一生懸命取り組んでくれて大変良かったです。また保育指導計画の作成方法については保育現場で使えてこそその知識です。実習を通してこの授業が役に立った、もしくは役に立たなかったなど、フィードバックを得ながら進めていきたいと思います。今後も授業内外で何が必要かを伝え合いながら、一緒に勉強していきましょう。

◆幼児と運動・遊び(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の工夫の観点での評価が、他の観点よりも低かった。体験的な内容を設定し授業を展開したが、体験でとどまってしまう授業であったかもしれません。知識を得る、体験する、改善するという段階で演習を進めるなど授業づくりにおいて更なる工夫が必要だと実感しています。

2. 今後の授業における目標

保育の現場をイメージできる授業課題を提示し、実践力が身につく授業となるよう努めます。学生が、学

修テーマに沿った自己の課題に気づき、課題解決に向け主体的に取り組めるような授業環境の設定に心がけます。また、授業の振り返りレポート等をフィードバックし、学修の連続性を担保します。

3. 受講学生に対する要望

いつも前向きな姿勢で授業を受けていただけ、教員としても授業に張り合いがあります。大学での学びが職場での実践力につながるよう、今後も意欲的に取り組まれることを期待しております。

◆幼児と環境(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

体験と自分なりに考える力を重視した授業形態(講義と演習)を行い、いかに実体験が大切であることを学生の皆さんと共感することに努めました。また、積極的に課題に取り組む力が保育現場で大切であることを私自身の現場経験も含めて伝えていきました。楽しく環境について学べたという学生の声から保育者自身も楽しむことの大切も理解してもらえたことがうれしく思いました。

2. 今後の授業における目標

学生が身近な環境や社会問題に目を向けて、子どもや保育に繋げて考えたり、取り入れたり、問題意識をもったりできるよう、私自身も新しい情報を得るように努めていきたいと思えます。そして、学生とコミュニケーションを大切に努めていきたいです。私の経験だけでなく、今の保育の情報を得るために現場に向き、得られた情報や知見を授業にいかしていきたいと思えます。

3. 受講学生に対する要望

子どもたちにとって保育者の環境に関わる姿、「感性」が大きく影響します。環境との関わりを通して、子どもの内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、「私が保育者だったら」、「保育を進めていくには」、など保育現場でどのように環境を活用していきけるのかどのように子どもと関わるのかをイメージしながら取り組み、実習や研修、現場でいかせるように学びを深めてもらいたいです。

◆障害児保育Ⅱ(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生それぞれがテーマについて調べ発表という形態をとりました。初めてで不安でしたが、「自分で調べたので確実に頭に入った」「友だちの発表なので高い意識で聞いた」「教える立場になり心地よかった」の意見がありました。これらは、障害児保育1の積み重ねがあったからこそ可能であり、授業間の連続性系統性の必要性を感じました。また、任せる形態も必要と実感し、新しい形態に挑戦する意義を学びました。

2. 今後の授業における目標

障害児保育1での学びをより修得するためにも、次年度も同じ形態に挑戦したいです。ただ出典元が、ほぼインターネット検索あり、一つの出典元でした。インターネットは適切な情報の取捨選択の力も必要になりますので、一つの出典元でまとめる危険性も感じます。次年度は、出典元を最低2つという指導をし、内容の質を高め、障害特性や支援を深く理解すること、複数の資料を比較検討する力も育てたいと考えます。

3. 受講学生に対する要望

保育の現場には気になる子どもたちは必ずおり、夏休みの実習時に会います。その時に、学んだことと結びつけられるようになって欲しいです。机上の学びだけでは単なる知識になってしまうからです。本人が何で困っているかを理解する際に、この時間の学びを活かしてください。そのためにも、障害児保育1も思い出しながら、一つでも確実に知識を身につけられるように、意欲的主体的に学習に臨んで欲しいです。

◆子ども家庭支援論(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんは、現場での子育て支援にかかわる機会を得ることが難しいため、できる限り私の保育現場経験を踏まえた事例を示しながら授業を進めました。「授業の取組に対する工夫」の評価が低かった点に対しては、毎回プリントがほしい、パワーポイントの穴あき資料がほしいという学生の要望を受け止め、授業における教科書やプリントのポイントをもう少しわかりやすく提示するとともに、配布資料についても工夫したいと思います。

2. 今後の授業における目標

今後も、振り返りシートを通して、学生の理解度を把握するだけではなく、意見や質問をしやすい環境を整え、毎回の授業の初めに、前回のフィードバックとともに、質問事項については、丁寧に回答することを大切にしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

皆さんが熱心に授業や学修に取り組む姿は、とても嬉しく思います。将来、保育者として、子どもたちのつぶやきや保護者の思い等を聞き逃さず大切にしていくためにも、講義の中で、自らメモを取ったりマーカーを引いたり、ポイントについて、わかりやすくまとめる力をつけていきましょう。

◆社会的養護 I (幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

社会的養護の現状と課題が理解することを目標に授業を行っており、実際に現場で働いている保育士や心理士を授業に招き、生の声を届けることで現場のリアル感を感じてもらえたのでは感じている。教科書を使用した座学の部分においては、何が重要かをもう少しポイントを絞って講義する必要があったと感じている。

2. 今後の授業における目標

引き続き社会的養護の現状と課題を理解することを目標にしていくが、そのために現場で働いている保育士や心理士を授業に招きながら、ロールプレイを通して子ども達の気持ちに立てるような工夫も行っていく。また、教科書をしようした座学においてもポイントを絞って説明できる工夫を行っていく。

3. 受講学生に対する要望

特にありませんが、社会的養護にまつわることが報道等で出た場合、少し意識して見るように心がけておいてほしい。

◆教育方法論(幼2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業で毎回利用したプレゼン資料を GoogleCrassroom で pdf データとして閲覧できるようにしたことで、プリントへの記入作業の手助けとなったと感じています。また、Jambord を利用しての意見交流では、多くの仲間の意見を交流することができ、学びの深まりがあったことが毎時間の振り返りから感じることができました。また、教養ミニトークは、時事を中心した内容を提供でき、広い知識の獲得に役立ったと感じています。

2. 今後の授業における目標

教育(保育)の方法については、時代の流れの中で日々進化しているものだと思っています。動画を視聴したり、グループワークを取り入れたりしながら学びが深まる工夫をするとともに、過去の歴史から現代、未来をも見据えた保育の在り方について常に考えながら授業改善に心がけたいと考えています。

3. 受講学生に対する要望

GoogleClassroom を活用して毎時間の振り返りを実施してきましたが、入力忘れがあるので授業後に確実に入力するようにしてほしいと思います。

◆子育て支援(幼3)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんは、保護者とかかわる経験を得ることが難しいため、私の保育現場経験を踏まえた事例を示しながら授業を進めました。また、様々な保護者への対応にはチーム保育が重要となるため、毎回の振り返りシートの共有やグループワークを通して、学生同士が意見交換しつつ、異なる意見を受容することに重点を置いてきました。全体的に評価が低い点は、講義でのわかりやすい説明やワークシートの工夫が必要だと思いました。

2. 今後の授業における目標

授業に入るまでの前回の授業のフィードバックが長く感じたという学生の指摘について、受講人数が多く、振り返りシートの内容を共有するために時間を費やしてしまいました。もう少し整理して提示していくようにします。また、グループワークについては、配布するワークシートやパワーポイントを改善し、学習意欲が湧くよう工夫し、わかりやすい授業展開をしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

特に保護者と信頼関係を築くためには、日頃の生活における一挙一動が問われることも多く、謙虚な態度等は一朝一夕で身につくものではありません。また、新しい知識や保育技術を学ぶことは重要ですが、それ以上に、身近な人に対して、おおらかな心とやさしい気持ちで接し、あたたかいまなざしで相手の思いを受容することは子育て支援に携わる者にとって何よりも大切だということを忘れずに授業に臨んでほしいと願っています。

【デザイン美術学科】

◆マンガ基礎(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

マンガもデジタルで描くことが当たり前になりつつある昨今だが、学生のコメントにあるように、「紙にペン、インク、スクリーントーンを使い描く」ことが、デジタルツールの根源でもある事を学生が理解して、学修を進められるよう努めており、それが実際に伝わっていることが分かって良かった。

2. 今後の授業における目標

ペンで絵を描くことの体験に留まらず、マンガが様々な「描く」表現の役に立つかをより強く訴え、学生が理解し、ジャンルを超えて生かすことができるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

やることそのものは決して難しくはないですが、基本だからこそ、一つ一つのことを、きちんとできるようにしていく必要があります。マンガに限ったことではありませんが、基礎がしっかりしていないと、その上にどんなきらびやかなものをコーティングしても、「見てくれだけで中身が無い」と、ばれてしまいます。基礎こそしっかりと踏まえていきましょう。

◆デジタルコミック基礎(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

エンタメ業界の2D部門に関してまずは俯瞰的に理解をしてもらうため「発想」→「情報の整理」→「具現

化」の工程を理解するための授業だが少し詰め込みすぎた感がある。

2. 今後の授業における目標

年度により学生の興味の方向が微妙に変わってくるのでもう少しそれに合わせた微調整が毎年度必要。

3. 受講学生に対する要望

クリエイターは決して派手ではない。細かい作業、気の遠くなる程のリテイクの上に成り立っている。「受け取り側」の思考から「製作者側」の思考へ脳の回路を切り替えることを常に意識してほしい。

◆描写基礎 I (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

アンケートへのたくさんのコメントをいただき、ありがとうございます。描画力向上について、自覚していただいていたコメントがいく名もあり、良かったです。

今回いただいた結果としっかりと向き合い、よいところはよりよく、問題点にはしっかりと向き合い、要因を探り、対策を講じたいです。

2. 今後の授業における目標

授業では、表現の基礎を体得し、今後の制作のために、豊かなビジョンが描ける学生を育てていきたいと考えます。

自主性と共に育て、学生が『自分は頑張った。』と思えるような授業づくりをしていきたいです。

そして、個々の特性に合った指導に努め、成果を実感できる授業にしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

得た情報を自身の技能として、活用できるようになるために

時に、一心不乱に絵を描いてみよう。

時に、評価された「もの」や「こと」にいっぱい触れ、共感体験をしてみよう。

時に、評価されたものの「意味と価値」について考察してみよう。

◆CGキャラクター基礎(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

【多数コメントに「学生の楽しさを実感」下記例】

「この授業でしか出来ない CG を使った色々なキャラクターやクリーチャー作り、背景作りが体験出来てとても良かったです。先生の説明もゆっくりでわかりやすく助かりました。」

「MAYA などを使って CG キャラクターを作るにあたっての基礎を学習できたところ。先生の説明もわかりやすく、話も聞いていておもしろく、楽しく学習することが出来ました」

2. 今後の授業における目標

作る習慣が「やる気」につながり、作る意欲が身につく。

放課後学修を勧める。

3. 受講学生に対する要望

ゲーム・アニメのCGキャラクター。放課後「作ってみる」お勧めです。そして、ぜひ見せてください。続けていくと、身につけた力が、希望の将来を近づけます。

◆日本・東洋美術史(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

講義だけではなく、映像資料をまじえながら美術に少しでも興味をもってもらえるような授業を心がけた。

もう少し多くの作品を取り上げて解説をしてもよかったかなと考えている。

2. 今後の授業における目標

自分自身も最新の美術史の動向を追い、それを授業に活かしていけたらよいと考える。

美術のおもしろさを学生に少しでも理解してもらうよう授業をしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

関心がある美術展に行ってみたり、美術関連の図書などを日常的に読んでみたりして日常的に美術に触れてほしい。

◆CG基礎(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

初めてソフトに触る学生を考慮し、学生が授業時間内に内容を理解できるような授業内容・課題構成に努めてきました。学生が面白いと感じ、積極的に課題制作に取り組んでもらえるような工夫を授業内につか取り入れてみました。

まだまだ課題とする部分はありますが、おおむね学生には楽しんで受講してもらえたと感じます。

2. 今後の授業における目標

学生からの意見を元に、今後問題点を改善しつつ学生の理解度と進行度に応じた授業内容・課題構成にしていきたい。

学生が受講しやすい環境作りにも取り組んでいくべきだと感じました。

3. 受講学生に対する要望

この授業では、イラスト制作に必要な機能を主軸に学べるように心がけました。

授業内だけではなく、個人での作品制作に活用していき下さい。

◆デザイン論(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

履修者を公平に、一律に学んでもらうため、用意周到計画した内容だったが、無理があったようで(とくにエンターテインメント志向系学生にとって難しかったようだ)、定量的には厳しい評価だった。結果を真摯に受け止め、履修者の階層分けなどの対策を実施し、全体の理解度向上を図りたい。

2. 今後の授業における目標

理解度の底上げのため、履修者の水準に合わせたプログラムを平行しておこなうなど、工夫を凝らしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

理解度に則した履修者の3段階程度のクラス分け;ポートフォリオ分析を実施することの了解をお願いいたします。

◆マンガ・イラストレーション I (デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

マンガコースとコミックイラストコースの統合を意識しその準備として先駆けて開始した授業でありその分若干の手探り感があった。大まかながらマンガとイラストを専攻する学生たちの希望に添えたと思う。

2. 今後の授業における目標

コンテンツ内容を更にブラッシュアップしエンタメ 2D 全域を更に網羅しかつ各学生の要望に応えられる体制を作りたい。

3. 受講学生に対する要望

マンガとイラスト、更にはゲーム。これらの制作活動にはエンタメ業界独特の共通項が非常に多くありそれぞれ出力する媒体が違うだけ、根幹は同じ。そのことを一秒でも早く気付いて欲しい。

◆シークエンス表現論(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

クリエイターに必要不可欠なスキルの中でも根本的な部分にあたる想像力(妄想力)を養うために開設した授業であったがその重要性がまだ学生へ大きく浸透していないのが肌感覚として残る。

2. 今後の授業における目標

いわゆる真面目にクリエイターを目指す「解る学生」には確実に伝わっているが一般就職を始めから目指している学生にも刺さる構成を考えていく。

3. 受講学生に対する要望

何度説明しても未だに「タダで映画が見れる授業」という勘違いをして受講する学生が一定数存在してしまう。何度でも言うがこれは授業です。好きな映画が観たいなら個人でお金を払って見てください。

◆総合卒業研究(デ2)ゲーム・CG

1. 授業評価の結果に対するコメント

進路に沿い、学生が主体的に進める、取り組み。

面談、アドバイスを、希望や制作段階に合わせ実施した。

遅れる学生と、先行する学生へ、希望に応じ、授業時間外のサポートを行った。

2. 今後の授業における目標

「知識の全体共有」「学生同士が教え合う」その仕組み作り。

テーマごとに、グループ化。

「教え合うことで、理解が深まる」効果が期待できる。

3. 受講学生に対する要望

放課後、春休み、将来に向け、目標をさだめ、進めてください。

「まず、やってみる」

「経過を見せ、アドバイス受け、その改善」取り組みが、結果につながります。

◆アプリデザイン(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

限られた時間の中で、学生の方々が WordPress を理解、使用できるようになるまでサポートできたかと自己評価しております。

オリジナル制作では、それぞれが自分の思うアプリのデザインを作成し、機能やターゲットなども踏まえユーザが見えている制作物が完成しました。

2. 今後の授業における目標

今後また大垣女子短大の講義に参加させていただける機会がございましたら(4年目となります)、これまで以上に完璧に授業を仕上げ、学生の皆さんの理解度が上がり、それぞれご自身の思い描く制作物ができるよう、精一杯サポートさせていただきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

本講義では、アプリデザインや、サイトづくりのみならず、様々なワークショップを通じて、メディアの枠組みを超えた幅広いコンテンツプロデュースに挑戦していただきます。

最初から高難易度なワークショップを行うことはございません。ご興味のある方は是非受講ください。

◆キャラクターデザインⅡ(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価を見た限りそれぞれの学生さんに遭ったアドバイスをできていたようでよかったです。

2. 今後の授業における目標

引き続き的確なアドバイスができるよう自身も知識を増やして学生さん個人個人の希望に添えるよう努力したいと思います。

3. 受講学生に対する要望

皆さん意欲的に講義に参加して下さったので特にありません。

◆Webデザイン(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

商品ブランディングの学習も目的とした授業のためパッケージデザイン、ロゴデザインなどを行いながらWeb デザインのアウトプットも行うという長期間取り組む課題でしたが息切れする事なく取り組んでもらう事ができました。

商品の魅力をより深く伝えるためのリサーチにかかる熱意は個人差がありましたが、ここまで調べてくれたと驚く学生も中にはおりデザインをする上で必要な事を行動で示してくれて良かったです。

2. 今後の授業における目標

半年で学習出来る範囲という制限がある中で現状のシラバスは広く浅くの学習になりやすく、Web 業界デザイン職への就職を目標にするには削る部分と深掘りする部分の調整が必要となってきました。教養学習ではなく専門職のスキルを身につけるためにも学科担当の先生と見直しをしていきたいと思っています。

3. 受講学生に対する要望

写真や文章をパズルのようにスマホの画面に収まるように組み合わせる事が Web デザインではありません。「この商品やサービスを買いたい、関わりたい」というポジティブな反応をステークホルダー(利害関係者)に生み出す事が出来るストーリーをデザインとして描けるようになる事が必要です。心の変化を意識しながら広告に向き合ってみてください。

◆ゲーム UI(デ2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

ゲーム UI のアウトプットをスマホを通してピクセルで見ているため、編集に強い Illustrator のベクトルが素材の根底にある事を理解してもらおうという点と、制作ボリュームがあるからこそチームで取り組みながらもディテールを共通に出来る作業に取り組んでもらえるようにする点の二点を意識して取り組んでもらう事が出来ました。

2. 今後の授業における目標

Illustrator に触れる時間が1年次に圧倒的に少ないためゲーム UI 以前のスキル向上も必要となっているのが課題点です。また自発的なコミュニケーションを全ての学生がアクション出来るようにしてグループワークがもっとスムーズに行えるようにもしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

慣れない Illustrator に苦労した点もあったと思いますが、練習を重ねれば再編集のアウトプットまでの時間は大きく削減出来るようになります。また自発的なコミュニケーションを取れるようにするために自分自身を「持ちたい部下像」となるよう意識して今後のグループワークにも取り組んでいってください。

【音楽総合学科】

◆専攻楽器 I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生個々のレベルに合わせたレッスンを心掛けたが、工夫項目の評価が今一步であった。

マンツーマンのレッスンであるため、学生個々の取り組み姿勢を注意深く観察し、学生にとって満足度の高いレッスンを心掛ける。

2. 今後の授業における目標

管打楽器リペアコースの学生に対しては、レベルアップのみでなく、演奏を楽しめるようなレッスンとする。

3. 受講学生に対する要望

時間を有効に使い、指摘箇所の練習を。

◆音楽心理学(幼2, 音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

1週ごとにトピックが完結する授業なので、欠席した学生へのフォローが難しいと感じた。テストを行うと欠席した授業については全く知識がないことがわかるため、次の授業で前回の授業のダイジェストを話すなど、内容が継続するように努めたい。

2. 今後の授業における目標

トピックが多く内容が複雑なので学生が理解しているかを確かめるために、学生の意見をその都度取り入れるような回答フォームを設けたりしたい。

3. 受講学生に対する要望

わからないところ、詳しく知りたいことなど意見を交換して、より興味のある内容にしていきたいので質問や意見を積極的に出してもらいたいです。

◆吹奏楽実践演習 I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、各教科「マナー」「意欲」「時間外学修」については、学生諸君が意欲的に授業にとりこんでくれたことにまずは感謝したい。この授業を通じて、改めて学生諸君は、楽器が好きなんだと実感させられた。

2. 今後の授業における目標

知識や技術の修得ももちろん大切であるが、何より演奏する機会の提供を意識して授業を進めたい。今年度は、学外演奏する機会が定期演奏会のみとなってしまったが、それだけに演奏会で充実した経験ができるよう尽力していきたい。

3. 受講学生に対する要望

音楽には、答えは一つではなくたくさんあります。多様な音楽へのアプローチの仕方を学んでいきましょう。

◆リペア基礎ⅢA(音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年の評価を受け授業全体の流れを再確認した結果、全体的に高い評価になっていた。今後も一人一人の性格を早く見極め、それぞれが苦手としている部分を見極め、それぞれに合った対応をし、より満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

2. 今後の授業における目標

板書を書き写す時間を増やしながらか時間の使い方を工夫して今後も授業の雰囲気大切に、より工夫を凝らし授業に集中できるような環境作りに努力したい。また引き続き、積極的に声を掛け学生のコミュニケーション能力を高め早い段階から意思疎通が出来るような関係づくりを心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

疑問などは積極的に質問し、早い段階で解決する事で技術力が付いていきます。また、覚えた技術を身に付ける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたい。

◆電子オルガン I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

一人一人のレベルに合わせて楽しく学んで欲しいと言うことを念頭に置きながら授業を進めていたが、一人一人をシラバス通り進めることは難しかった。学生から自分で選んだ曲を完成させた達成感を味わえ、少しずつ上達できたのでやりがいがあった。また楽しく学べたというコメントをもらえて嬉しかった。

2. 今後の授業における目標

毎回授業の目標を明確にし、その目標を達成するために、それぞれの学生の進捗を考慮しながら個々に合った指導がしたい。

3. 受講学生に対する要望

わからない事があったら気軽に質問などして欲しい。

◆ヴォーカル(音総1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業進捗に問題を抱く学生が何人かいましたので、丁寧な説明が必要かと思えます。

声は簡単に出ますが、その曲に対しての声を良い声で出すにも時間が掛ります。良い響きで一曲を通すことは大切なことであると、学生に皆さんにも伝えていきたいと思えます。

2. 今後の授業における目標

クラス授業ではありますが、一人一人の発声の問題点は異なる為、個人レッスンも時間の許す限り行いたいと思えます。声を通して表現をする科目なので、人前で自身の音楽を堂々と発表できるようになるのが望ましいと思えます。クラス全員が自信をもって歌えるようになることを期待しています。

3. 受講学生に対する要望

授業前に次回開講の講義の内容をシラバスで確認しておいて下さい。シラバスに沿って授業は進めますので、よろしくお願いします。

◆鍵盤楽器 I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述での沢山のコメント、ありがとうございます。

学生の気持ちやダイレクトに伝わり今後の授業の参考になりますし、私自身の励みになりました。

シラバスについてはやはり個人レッスンということもあり、進捗状況の違いを一律に進めることは不可能

な為それを学生に少しでも理解してもらえるように、もっとわかりやすくするよう改善が必要だと思いました。

2. 今後の授業における目標

今まで以上に学生一人ひとりの個性を大切に、学生達が自ら意欲的に積極的に演奏できるようアドバイスしていけるレッスンを心がけたいです。

3. 受講学生に対する要望

レッスンにおいて、分からないこと心配事などがあれば教えてください。解決策を一緒に考えたいと思います。

◆ピアノ1(音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

よく理解ができるよう配慮していますが、それが結果に出ていてよかったです

2. 今後の授業における目標

時間配分がもう少しうまくできるよう気を付けます

3. 受講学生に対する要望

毎回課題をもって取り組んで下さい

◆音楽史 I(音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生達に、音楽史に興味を持って貰えるように、熱意を持って取り組んだ結果、好評価を頂き、嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

後期は、更に深い理解と関心を共有出来るような授業を展開したいと思います。

3. 受講学生に対する要望

授業のノートや、課題曲を聴いての感想、前期と変わらず真摯な取り組みを期待しています。

◆卒業研究 I (音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

全担当科目において、満点評価の科目が多かったが、この科目を含め3科目ほど、全学、学科平均を下回る評価だった。共通してシラバスの評価が低く、レッスン系の科目は1週ずつ細かく設定してもその通りには実施できない為、今年度は表記を改善したのだが、それでも評価が低く、何を求められているのかが分からないところがある。その他の項目においては評価が高く、学生の満足度につなげることができたのではないかと感じた。

2. 今後の授業における目標

工夫の項目の評価が低かったが、この科目は個人レッスンの授業ではあるが、グループディスカッションも取り入れ、学生同士お互いの演奏を聴き合い、自他への気付き等を討論し合うなど工夫というほどではないが実施した。他にもレッスン自体に工夫できることがあれば検討したい。自己の取組のマナーについても評価が低く、他の科目や前年度の科目でもそうだったが、個人レッスンでの会話等に問題があるのであれば改善できると良い。

3. 受講学生に対する要望

評価が低い項目については、今後活かすためにも、授業で改善した方が良いところの欄に、その理由や改善の内容等を可能な限り記述してほしい。また、自己の取組の時間外学修の評価が低かったので、卒業年次生として重要な科目であることを自覚し、学修時間を増やしてほしい。練習時間を増やすことはもち

ろん、多くの演奏を聴き自ら感性を高め、演奏法、音色、表現法等を研究するなど、学修を深め、卒業演奏に臨んでほしい。

◆リペア応用(木管Ⅰ)A(音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

全項目ともおおむね良い結果となった。中でも自己の取り組み「理解」の項目が3.9と高く、一年次の復習や新しい技術内容に関して、昨年度よりも時間をとり丁寧に進めた結果が表れたのではないかと考えます。

2. 今後の授業における目標

早口で話してしまうことが多いので、常に意識して落ち着いた丁寧な説明に心がける。

3. 受講学生に対する要望

技術を習得する為に何度も繰り返し作業を行います。前回より良い状態で、より時間短縮できるよう、毎回集中し作業をしてください。

授業時間外の取り組みも大事ですが、適度な休憩をとることも必要です。メリハリをつけ、効率よく作業に取り組んでください。

◆音楽療法実践Ⅲ(音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度は受講人数が少なかったため、現場実践においては学生への役割分担もこれまで以上に多くなった。結果的にはそれが自己の取り組みに対する評価に繋がったと考える。授業の取り組みとしては、少人数であるがゆえに個別対応では細かい部分まで伝えることができ、進めやすかった。

2. 今後の授業における目標

学生と上手くコミュニケーションをとることは、授業を進めるうえでとても大切なことと考える。しかし、受講人数が少ないことで踏み込み過ぎてはいないだろうか、と思うことがよくある。

話し方や話題の提供の仕方など、よく考えながら進めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

現場実践においては学生同士のまとまりが不可欠の為、お互いに支え合える関係づくりをこれからも継続してほしい。

◆リペア応用(金管Ⅰ)(音2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組みに対する評価の中の時間外学修と知識技能修得についてが平均を下回っており、授業時間内で個別課題の提示が不十分だったように感じました。

2. 今後の授業における目標

授業時間内の実習の際に、時間外学修で取り組むと効果的な内容について個別に説明したり提案したりができるように気を配りたいです。

3. 受講学生に対する要望

時間外学修を通じて、より深い知識技能の習得を目指してください。また、不明な点やうまくいかない内容について、どんな内容でも質問をしてもらえればと思います。

【歯科衛生学科】

◆病理学(歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度に引き続き、調べ学習などのアクティブラーニングを取り入れ実施した。解説・補足の時間が少し足りなかったところも少しあったが、医療人・歯科医療従事者として必要な病理・病態的知識を伝達することが出来、良い評価につながったと考える。

2. 今後の授業における目標

講義内容をさらに吟味することと、オンラインで受講後の学生理解・知識定着をはかるツールを作りたい。

3. 受講学生に対する要望

アンケートへのご協力ありがとうございます。今後活かしていきます。知識は繰り返し復習することで定着するため、受講後や試験後の繰り返しが大切です。臨床実習や国家試験合格のためにも、時間を見つけて復習しておきましょう。

◆解剖学(歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回行う Google フォームを用いた国試過去問の小テスト(出欠も兼ねている)は反応も良好であり、良い評価であった。今後も継続して行いたい。

2. 今後の授業における目標

単なる暗記科目にはせず、可能な限り興味をひくような授業にしたい。3D ソフトやバーチャルスライドを用いて一方通行な講義にはせず、対話的な講義を心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

将来の仕事にも直結する基本的分野ですから、積極的な態度で受講してください。

◆歯科衛生士概論(歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の内容としては、歯科衛生士の魅力、役割についての授業としては、問題ないと思われる。

使用した、パワーポイント、配布した資料に今回ずれがあり、学生にとっては、分かりにくいところとなったと反省をしている。また、学生の理解力、プリントの取り組みに誤差があるため、スピードとしてもその点に配慮が必要であったと感じる。今後は、そこを改善していけるように考えていきたい。

2. 今後の授業における目標

授業のスピードをもう少し落とし、筆記できる時間を長くしていけるように取り組んでいきたい。また、指摘があった説明と資料のずれがあった内容は、改善していきたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

定期試験に課題を持ちこみ実施するため、プリントをまとめて行くことは、授業のなかでのポイントです。途中で、パワーポイントでの説明は、時間を取っているつもりですが、その時にしっかり聞いて、メモを取るようになっています。

◆歯周病予防技術法 I (歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に平均より高い評価であったが、自己の取組に対する評価の理解に対しては同等であった。

技術を修得する内容なので、理解をしっかりと取り組まないと難しい科目であるため、授業の取組に対

する評価の工夫に関してよい評価ではあったがより工夫が必要であると感じた。

2. 今後の授業における目標

学生全員理解度も違ふし、技術の修得具合も違ふので引き続きしっかり全体把握に努めていきたい。1年生の前期で口腔内を診たり検査をしたり、初めての経験で緊張もすると思うので緊張感ももちろん大事だが、多少ほぐしつつ理解しやすい環境を考慮したい。

3. 受講学生に対する要望

練習するのは試験前になってからの学生が多いため、一つ一つ確実にしてほしいので試験前だけでなく普段から練習してほしい。わからないことはすぐに聞いてほしい。

◆診療補助基礎 I (歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価でマナーの部分が4.0と高く、授業内でも身だしなみ・時間、期限を守ることを繰り返し指導した結果ではないかと考える。厳しいとの声もあるが今後も時代に合わせて指導していきたい。また、知識技能修得については、歯科衛生士として業務を行うにあたり重要になってくる技能に関して授業内で繰り返し復習を行ったことが3.9という結果につながったのではないかと考える。

2. 今後の授業における目標

実習科目は技能優先と考えるため。実習時間については一人当たりの時間が多くなるように時間を確保したい。

デモ動画などを作成し技能の確認を自宅などで復習できるよう、ICTを積極的に活用していきたい。

3. 受講学生に対する要望

- ・身だしなみ、時間・期限を守るなど、臨床(社会)に出るにあたって当然のことです。
- ・やるときはやる、休むときは休むメリハリをつけて実習をしましょう。
- ・教員の話はしっかり聞きましょう。自分で判断できない時は、必ず教員に確認してください。
- ・授業でわからないことがあれば、その場で聞くか授業後に質問しに来て下さい。わからないことをそのままにしないように。

◆生理学(歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価において担当科目と全学、学科の平均とほぼ一致していたので、講義の内容、進行については特に問題はなかったと思う。

2. 今後の授業における目標

本試験において再試験者が多かったので、理解度が得られていないと思われる。改善点においてもプリント類の配布を希望していたので本試験対策を強化して講義を行いたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

教科書、スライドの説明を通して、資料を与えられて学ぶのではなく、本試験のときに振り返って役立つような自分なりの講義ノートを作成することを自ら工夫して学んでほしい。

◆口腔衛生学 I (歯1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年よりさらに具体的に説明したこと、スライドや配布資料の一部変更をしたことに対して、良い評価をもらえて嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

今後は楽しい教科と感じてもらうよう、授業の進め方、より具体的な説明(身近な事柄などと繋げる)、また図や絵を多く使用するなどの工夫をしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

わからないところなど授業前後の休憩時間やメールでも構いませんので、質問をしてください。

◆発達口腔保健演習(歯2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

本科目は、学習範囲が広いので、試験前に復習の時間を確保し、授業中にも試験のポイントを伝えていました。ただ、情報量が多くなってしまったため「まとめプリントが欲しい」という意見がありました。

また、教科書の読み方(内容の伝え方)について、もう少し丁寧にしたいと思います。

2. 今後の授業における目標

本科目は、学習範囲が広いので伝える情報が多くなってしまいました。

もう少し整理して時間に余裕をもって伝えていけるように努めたいと思います。

本科目は「考える」ことも必要です。皆さんがより良い考えに辿りつけるような声かけを心がけていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

他の科目にも共通しますが、配布されたプリントだけではなく、必ず教科書を熟読する習慣を身につけてください。

これから臨床実習や国家試験勉強等、大変なことが多くなるかと思いますが、健康に留意して頑張ってください。

◆診療補助応用Ⅱ(歯2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

残念な評価になってしまった。今回、前回に比べ実習項目を増やしたため、時間配分に無理が出てしまった。内容を検討し、時間に余裕が持てるように改善していく必要がある。特に最後の内容は、時間延長になり慌ただしいものになったと反省している。プリントについても、検討していきたい。今まで3名の教員で実技をチェックし指導が4人になったため、一人の学生指導に時間をかけることは改善点としてよかった。

2. 今後の授業における目標

シラバスの内容を見直し、実習時間に余裕ができるように改善していきたい。配布資料等にも見やすいものにしていきたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

この実習は、事前に保存・歯内療法 of 授業後の実習として組み立てているため、事前に復習して取り組んでもらうと理解しやすいと思います。掲示、学生ポータルから事前連絡を確認して、準備に忘れ物がないようにしてほしいと思います。

◆歯周病予防技術法Ⅲ(歯2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に良い評価であった。

自由記述では分かりやすかったと記述があり嬉しく思う。確実に技術を修得するためにグループ分けをして一人一人しっかり把握するように工夫を行った。

2. 今後の授業における目標

繰り返し行うことで覚え、技術を修得してもらうために授業の内容をより工夫したい。

授業だけではなかなか修得できないので練習するよう促したい。

3. 受講学生に対する要望

わからないことはどんどん聞いてほしいです。

たくさん練習して確実に修得できるようになってほしいです。

◆摂食嚥下リハビリテーション学(歯2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価、授業の取組に対する評価、設問 13、14 で概ね良い評価をいただいた。

初学者にも分かりやすく伝えるために工夫した点が、今回の評価に繋がったのだと思われる。

2. 今後の授業における目標

「学生のために」という初心を念頭に、少しでも興味を持ってもらえるような授業の組み立てを考え工夫し続けようと思う。

3. 受講学生に対する要望

大学以外にアルバイトや友人関係など様々なイベントがあり、授業時間外に復習の時間が取りにくい年代のため、授業時間内に修得できるよう集中し、自分の時間を大切に使うことを望む。

◆歯科保健指導基礎(歯1)保健指導法Ⅱ(歯2)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の進行について、授業開始時に前回の学修内容の振り返りや小テストによる知識の確認を行っている。自由記述には、「大事なところが分かった」「小テストがあって学修習慣がついた」などの意見があったが、一方で進度が自分に合っていないと感じている学生もいたことがわかった。学生の学修状況に合わせて、進行を遅らせることもあったため、シラバス通りに授業を進めることができなかった。

2. 今後の授業における目標

個々の学生の学修状況を把握しながら授業を展開して行くようにする。学生は「小テスト」などがあると、学修しやすい傾向があるため今後もしっかりと活用する。

3. 受講学生に対する要望

今後も、授業に積極的に参加し、様々な学修に興味をもって取り組んでほしい。

教養科目

◆ 科目名(教養 学年)

◆国語表現(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」において、各教科「マナー」「意欲」「時間外学修」については、学生諸君が意欲的に授業にとりこんでくれたことにまずは感謝したい。今まで、全員課題としていたものを自主学習としたことで、各々の必要性に合わせた取り組みができるようになったと考える。

2. 今後の授業における目標

単なる知識の提供だけでなく、そこから派生する様々な要素を雑談の中で伝えることが、学生にとって学修の定着につながるということが分かったので、今後も継続していきたい。

3. 受講学生に対する要望

国語表現力は、コミュニケーションの源です。また、文学作品にふれたり、手紙を書いたりすることは、単なる知識の修得ではなく、君自身の人間力を磨くことに他なりません。今後も積極的に学修していきましょう。

◆音楽療法入門(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

楽しく学べるように動画資料や体験を取り入れたところ好意的に受け入れてもらっていた。

2. 今後の授業における目標

教科書を使わない授業も多く、学生から指摘もあったため、今後プリントで授業ができるように変えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

比較的多い人数の授業のため、常に私語は気になりました。

教員は私語で注意した学生をチェックしていたりします。自分は結構見られていると意識して授業に臨んでください。

◆教養・キャリア基礎演習 I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生にとって重要な科目だと思います。今後も丁寧な説明とともにしっかりと身に付くような指導をしていきたい。

2. 今後の授業における目標

今後も学生の進路に役に立つ内容を精査しより身に付く講義内容にしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

様々なものに興味を持ち視野を広げてもらいたい。

◆教養・キャリア基礎演習 I (音1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

どの項目においても評価が高く、自由記述の記載からも「社会人として役立つことを学べた」などの良い意見が多くみられ、良い授業内容だったと感じます。

2. 今後の授業における目標

今後も学生が社会へ出たときに役立つ授業にしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学修記録ノートを記入する際、誤字脱字をなくし誰もが読みやすい文章に心がけてください。

◆教養・キャリア基礎演習 I (デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価はかなり良好だと思える。学生からは、社会的な事柄を知ることができた、学生同士のコミュニケーションがとれたのが良かった、ほか、いろんな方向のコメントがあり、15 回の中で様々なことを行う授業だからその意見が聞かれ、そこにこの授業の意義があると感じている。

2. 今後の授業における目標

ただ様々なことを広く浅く知る機会ではなく、学生たちがそこからさらに深い学びを得られるきっかけとなるよう、授業の前後での考えの変化などを聞く機会を増やしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

上に書いたことと似ますが、様々なことをまず知ってみることは、視野を広げ、考えを深めるためのきっかけです。後期には教養・キャリア基礎Ⅱがあります。受け身ではなく、能動的な姿勢で今後も学んでください。

◆教養・キャリア基礎演習Ⅰ(デ1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の結果は平均的なのだが、「学科の就職内定率が低い」ことへの振り返りとして、キャリアについて、日ごろ日常的に関心をもってもらうことの対策が必要なのだと感じた。

2. 今後の授業における目標

本学科におけるキャリア教育は重要で、専門と一般との棲み分けを明確化すると共に、「一般の中の専門(半専門＝一般事務の中にクリエイティブ作業がともなうような職種＝オフィスをメインに使用しながらもイラストレータフォトショップを必要とする職種)」のルートが実際にあることを示し、その啓蒙をおこなっていききたい。

3. 受講学生に対する要望

半専門的職種(一般事務の中にクリエイティブ作業がともなうような職種)があることを知り、その方向にも興味を持ってください。

◆ヒトの身体のおしくみ(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度より、調べ学習などのアクティブラーニングの割合を増やし学生自身が積極的に取り組めるよう行った。本科目は教養科目のため、所属学科に関わらず今後の生活に活かせるような内容を盛りこむよう努めた結果、比較的良好な評価につながったと考える。

2. 今後の授業における目標

講義内容をさらに吟味することと、オンラインで受講後の学生理解・知識定着をはかるツールを作りたい。

3. 受講学生に対する要望

アンケートへのご協力ありがとうございます。今後活かしていきます。知識は繰り返し復習することで定着するため、受講後や試験後の繰り返しが大切です。臨床実習や国家試験合格のためにも、時間を見つけて復習しておきましょう。

◆女性学(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は学内外のゲスト講師を招いて行っているが、各回の内容や前後のつながりを熟考し、全体の一貫性を重視した構成の中で進めた。学生からは考えの深まりや知識の広がりを実感させる感想が寄せられ、こちらの意図がしっかり受け止められていたことを実感した。低評価だった「授業環境」は、私語を続ける複数の学生への対応に対する他学生の不満の表れだと思われ、さらなる対策が必要な点である。

2. 今後の授業における目標

肯定的な意見が多かったグループワークを工夫し、全ての学生が当事者意識を持って授業に臨めるような雰囲気を作りたい。授業の場の構成員としての各自の自覚を高めることで、私語を慎む行動へと繋げたい。

3. 受講学生に対する要望

授業で得た知識や視点で、自分の周りの世界を捉え直してみてください。今まで見えなかった色々なものに気づくと思います。それが真の学びであり、学ぶ楽しみを深めて欲しいです。

◆生活環境論(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

生涯を見据えた課題を設定し、生活と社会との関わりや自然環境を意識した生活の在り方、生涯を豊かに生きるために必要な考え方や力につながることを意識して授業を進めた。社会の一員として生活していくために必要なことを考え、実践することの意義を理解した。また、実践してみようという関心ももてたなどの感想があった。シラバスの評価結果が若干低かったが、初回の授業での説明だけでは不十分であったかと反省した。

2. 今後の授業における目標

引き続き、授業の進行については学生の学修状況を確認しながら進めていきたい。また、シラバスを15回の授業の中で適宜触れ、時間外課題や自主的な学修への取組みを促し、理解度の深化につなげたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

熱心に学修に取り組んでくれて嬉しいです。今後は生活範囲が広がり、自分で判断・決定することも多くなります。また、人とのつながりが増え、必要なスキルを高めることも大切です。自分の人生を豊かにするという意識をもって、生活の質を高めていってほしいと願っています。

◆情報科学(教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

テキストに沿って、情報セキュリティの学修及びの文書作成、表計算、プレゼンテーションの各ソフトウェアを活用にして基礎的なスキルを身につけることを目標とした演習中心の授業を実施しましたが、学生一人一人が真面目に取り組む学修成果を上げることができました。毎時間の振り返りのコメントから説明を加えてほしいとの要望もあり、今後の改善点としたいと思います。

2. 今後の授業における目標

演習を通して一人一人のスキルアップを目指すとともに、個別に対応した支援の充実を図っていき、実社会に出た時に役立つスキルを身につけてほしいと思います。情報セキュリティの学修については、引き続き最新の事例を紹介しながら、セキュリティ意識の高揚を図っていきます。

3. 受講学生に対する要望

テキストや USB メモリ、参考資料等の忘れ物があると、学修や演習に遅れが生じるので、準備を怠らないようにお願いします。

演習では、わからない点は仲間に尋ねたり積極的に質問したりして解決してほしいと思います。

◆外国語コミュニケーション I (教養1)

1. 授業評価の結果に対するコメント

「受講してよかった」のコメント数が、昨年度は受講者 81 名で 29 件(36%)であったのに対し、今年度は受講者 57 名で 42 件(74%)と激増したことは大きな励みになった。良かった点として最も多かったのは「ペアワークで友達とコミュニケーションがとれた」こと、次に「説明が分かりやすく基礎から学ぶことができた」という点であった。これまでの授業評価を生かし、微修正を繰り返しながら授業改善を進めた成果と受けとめたい。

2. 今後の授業における目標

学生がよかったと感じる内容や方法を継続しながら、さらに評価の向上を目指して授業を進めていきたい。今後の検討課題としては、学生が「もっともよかった」と回答しているペアワークの在り方である。

3. 受講学生に対する要望

ほとんどの受講者が、積極的にペアワークに取り組み、前向きに英語の学習に取り組む姿をととても頼もしく感じました。この調子で、後期も一人一人が大きな声で音読し、積極的にペアワークに取り組めば、教室は最高に居心地の良い空間になります。そんな環境の中で、英語の学習を存分に楽しみましょう。

本学の教職員は これからも
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。

総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和5年度前期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。

音楽総合学科	「専攻楽器Ⅰ」
音楽総合学科	「リペア基礎ⅢA」